

請 願 文 書 表	
受理年月日 及び番号	令和5年9月1日 第20号
件 名	「グリホサート農薬」のっていない安心安全な学校給食の提供を求める請願
請 願 者	<div style="background-color: black; width: 100%; height: 15px; margin-bottom: 5px;"></div> <div style="background-color: black; width: 60%; height: 15px; margin-bottom: 5px; margin-left: 20px;"></div> <div style="background-color: black; width: 40%; height: 15px; margin-left: 40px;"></div>
紹介議員	関川 けさ子
請願の要旨	次頁のとおり
付託委員会	文教委員会

## 請願理由

日本は、年間の米消費量よりも多い約 2000 万トンの遺伝子組み換え作物を輸入しています。現在、日本で流通している遺伝子組み換え作物の性質は、除草剤耐性と殺虫毒素生成のどちらか、またはその両方です。遺伝子組み換え作物とセットで使われているのが除草剤ラウンドアップです。日本では、ほとんどの食品に遺伝子組み換え表示がされておらず、私たちは知らずに口にしています。

除草剤ラウンドアップ（主成分グリホサート）や殺虫剤ネオニコチノイド系農薬は、健康や環境への影響が明らかになり、国際的に禁止や規制が進んでいます。しかし日本は 2017 年に、世界の流れに逆行して、グリホサートの残留基準値を小麦では 6 倍緩和しました。日本は、農薬使用量（農地単位面積当たり）が世界 3 位ですが、それにもかかわらず、農薬の毒性が正しく評価されていません。農薬の毒性試験では、市販の農薬が使用されていないのです。農薬は、主成分と補助剤（界面活性剤など）で構成されています。毒性試験は、農薬メーカーが主成分のみで動物実験を行います。つまり補助剤は、毒性試験の対象外なのです。なお補助剤の成分は、企業秘密とされ非公開です。2017 年、カーン大学セラリーニ教授の研究では、ラウンドアップの補助剤は、主成分グリホサートの 1000 倍以上の毒性があると発表されました。教授は翌年、補助剤には危険なヒ素などの重金属が含まれていることも明らかにしました。これらのことからわかるように「農薬は基準値以内だから安全」は誤った認識です。子ども達は、強毒な補助剤も体内に取り込んでいるのです。

2015 年、WHO の下部組織である国際がん研究機関（IARC）は、除草剤ラウンドアップ（主成分グリホサート）を「人に対しておそらく発がん性がある」と発表しました。アメリカでは、ラウンドアップを使用してがんになったという訴訟が 12 万件以上起きています。2019 年の「サイエンティフィック・リポート」では、世代を超えた毒性も報告されています。母ラットにグリホサートを投与（EU の無毒性量の半分）すると、母と子には影響がないのに、孫とひ孫の世代に腫瘍や生殖機能不全など多様な障害が出たのです。積み上げられた多くのエビデンスから、国際産婦人科連合（FIGO）は、予防原則に立ってグリホサートを禁止するよう求める勧告を出しています。

今、日本全国で子ども達に安心安全な学校給食を提供しようという活動が広がっています。2023 年 6 月 15 日には、国会で超党派の「オーガニック給食を全国に実現する議員連盟」が設立されました。議員連盟には自民党、公明党、立憲民主党、維新の会、国民民主党、共産党、れいわが参加しています。2023 年 6 月 2 日には、学校給食に有機農産物を拡大しようという地方自治体や JA、生産者が集まり「全国オーガニック給食協議会」も設立されました。「グリホサートが残留していない国産小麦を使用して下さい」との署名が提出された熊本県では、昨年からは国産小麦の使用が始まりました。文京区の学校給食のパンには、今でも輸入小麦が使用されています。カナダ・アメリカ産の輸入小麦からは、農水省の検査で 100% 近くグリホサートが検出されています。東京都学校給食会が過去に一度だけ行ったグリホサート残留農薬検査は、精度が低い（定量下限値 0.1 ppm）ため、残留の有無を判断できるものではありません。国産小麦は収穫前にラウンドアップを散布することが禁止されているため、グリホサートの残留はありません。免疫が完成していない子どもの口に入る食材は、安心安全なものを使用することが基本なのです。

以上のような観点から、文京区議会に対して下記の事項を請願いたします。

## 請願事項

- 1 予防原則に基づき、グリホサート残留の可能性が高い輸入小麦は学校給食での使用を止めて、国産小麦・米粉または米飯にするよう区に求めること。